

西暦	年号	郷土	日本
674	白鳳3	飛鳥時代 3月19日御神託により新川四社大権現奉斎 飛鳥時代後期の木簡に「高志・新川」の文字	646 大化の改新の詔 673 天武天皇御即位
746	天平18	奈良時代 万葉集大伴家持「立山賦一首」にて 「新川のその立山の～」と詠む 平安時代 新川神従四位下神階を授ける 867 貞観9 876 貞観18 新川神従四位上神階を授ける	710 平城京遷都 743 奈良大仏造立の詔 786 長岡京遷都 794 平安京遷都 866 応天門の変 869 貞観三陸地震
1550	天文19	(戦国時代) 初代新庄城主三輪飛騨守没 全福寺 轡田城主祈願所として創建	1467 応仁の乱 1488 加賀一向一揆起こる
1572	元龜3	上杉謙信 新庄城布陣、一向一揆の富山城落城	1560 桶狭間の戦い 1573 室町幕府滅亡
1615	元和元	江戸時代 夏 常願寺川大洪水 五本榎附近の新川神社 社殿浸水 神器流される その時にできた川を中川と言い 川の東に向新庄村できる	1600 関ヶ原の戦い 1603 江戸幕府開く 1615 大阪夏の陣 (豊臣氏滅亡) 武家諸法度 一国一城令発令
1616	元和2	新川神社 洪水により五本榎より現在地 (新庄町第一) に遷座する	1616 徳川家康逝去 1637 島原の乱
1639	寛永16	富山藩分立する	1639 ポルトガル船の来航禁止
1656	明暦2	秋 洪水有り その時にできた川筋を荒川と 言い 荒川の西に荒川村ができる 前田利常 鷹狩りの時に村の繁栄を見て町新庄と 称することを許される	1657 明暦の大火 (江戸城焼失) 1732 享保の飢饉 1782 天明の飢饉 1833 天保の飢饉
1858	安政5	地震による大鷲・小鷲山の崩壊で大洪水 新庄周 辺が大きな被害を受ける	1853 ペリー浦賀に来航 1858 安政の大獄
1871	明治4	明治時代 新川県新設 県庁魚津に設置	1867 大政奉還 1871 廃藩置県
1872	明治5	旧越中国が新川県となり、県庁が富山に移る 「新庄小学校」創校	1873 徴兵令公布
1876	明治9	新川神社神職船木守人宅を仮の校舎とする	1889 大日本帝国憲法発布
1883	明治16	新川県が石川県に編入される 石川県より分離して富山県となる	1894 日清戦争始まる 1904 日露戦争
1919	大正8	大正時代 新庄城址に小学校運動場造成される	1918 富山米騒動 1923 関東大震災
1945	昭和20	昭和時代 富山大空襲	1941 太平洋戦争 1945 戦争終結 1946 日本国憲法公布 1972 沖縄の施政権返還
1970	昭和45	新川神社社殿改築・仮設社務所建立	
1995	平成7	現代 新庄北小学校開校 新庄校下二分化	1995 阪神・淡路大震災
2010	平成22	新庄镇座四百年記念事業奉賛会設立	2011 東日本大地震
2011	平成23		
2016	平成28	10月9日四百年奉祝行事「町新庄祭騒動」開催 11月26日新庄御鎮座四百年記念大祭奉斎 あめつち ととも みらい つづ 天地と共に未来へ続く	2016 富山市新庄町大いに賑わう

創 建・白鳳三年(六七四)
町新庄遷宮・元和二年(一六一六)
御神託
〽 灑神山清流 〽
神山(立山)の清き流れがそそぐ故に新川と号す



元和二年(一六一六)な
くなんのこよんひやくねん
苦難を乗り越え四百年

御祭神

おこなむちのみこと (こくどけい) 大己貴命 (国土経営・農耕・縁結・医療・酒造の神)
おおいかわのみこと (しんじょうしゅごしん) 大新川命 (新庄守護神・水神・武神・物部氏祖先神)
合祀神社御祭神

神明社御祭神 (しんめいじや) 天照皇大御神 (あまてらすすめおおみかみ) (天界を治める日本国の守護神) (てんかい) おさ
白山社御祭神 (はくさんじや) 白山比咩命 (しらやまひめのみこと) (縁結・調和の神) (えんむすび) ちようわ

琴比羅社御祭神 (ことひらじや) 琴比羅神 (ことひらのかみ) (漁業・航海・交通安全・商売繁盛の神) (ぎょぎよう) こうかい こうつうあんぜん しょうばいはんじよう
諏訪社御祭神 (すわしや) 建御名方命 (たけみなかたのかみ) (相撲・勝負・農耕の神・水神) (すもう) しょうぶ のうこう すいじん

天満社御祭神 (てんまんじや) 菅原道真公 (すがわらのみちざねこう) (雷神・学問の神) (らいじん) がくもん
園神社御祭神 (そのじんじや) 大物主神 (おおものぬしかみ) (宮中の庭園の守り神) (きゆうちゆう) ていえん

新川神社社務所
〒九三〇一〇九九二 富山県富山市新庄町二丁目十三番四十七号
☎・FAX 〇七六一四四一・八一八六